

## 平成28年第1回定例会（3月）一般質問

### （3）子ども達の体力および運動能力の向上について

○ 議員 宮下 裕美子 それでは、3問目に入ります。子ども達の体力および運動能力の向上について、ということです。「平成27年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の結果が先日公表されました。ニュースなどでも大きく取り上げられていたので皆さんもご存じかと思いますが、北海道はこれまで同様、ほぼ全国最下位という順位でした。月形町の子ども達の状態は母数が少ないこともあって年次や学年によって変動が大きくなっています。平成26年度については、先日のまちづくり常任委員会でも取り上げ、全道に比べて同等か低い項目が多かったと報告を受けています。平成27年度については、HPなどで公開されている段階ですが、月形町は改善傾向にあったというデータになっていました。ただ、先ほども言ったように母数が少ないので学年による変動が大きいことから、必ずしも全体的に向上しているとはすぐには取れるわけではないということは、ご理解いただきたいと思います。こうした状況の中、平成28年度の教育行政執行方針では、子ども達の体力向上策を社会教育で取り上げるということで記載されていましたが、全ての子ども達を対象に対策を打つには学校教育でも取り上げる必要があるのではないかと考えます。特に「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」は、文部科学省が学校現場で調査して集めたデータですので、その解決策、改善策あるいはモデルケースなどもHPなどで公開されており、学校全体の取り組みが様々なされていて、成果を上げているところがいくつもあるということです。学校教育でどのように取り上げるのかということが1点ですが、それも含めて体力向上には計画的で長期的な取り組みがどうしても必要になると思います。それも含めて平成28年度の執行方針の中の施策とあわせて、月形町の子ども達の体力向上について、具体的にどのように行っていくのか、お伺いします。

○ 議長 堀 広一 教育長

○ 教育長 松山 徹 質問にお答えします。議員ご指摘のとおり、平成26年度と平成27年度を比べると、改善は見られるものの課題はあります。「平成27年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の結果から見ると、例えば、小学校5年生の男子では、握力・上体起こし・反復横とび・立ち幅とびは、全国・全道平均と比べると高く、長座体前屈・ソフトボール投げは、全国・全道平

均と比べると低い結果となっており、筋持久力や跳躍能力に優れているが、柔軟性や放置性・手先の器用さ、投球能力には課題が見られます。小学校5年生の女子では、反復横とび・20mシャトルラン・立ち幅とび・ソフトボール投げは、全国・全道平均と比べると高く、上体起こし・長座体前屈は、全国・全道平均と比べると低く、全身持久力や跳躍能力に優れているが、柔軟性に課題が見られる。中学校2年生の男子では、握力・反復横とび・立ち幅とび・ハンドボール投げは、全国・全道平均と比べると高く、長座体前屈・20mシャトルランは、全国・全道平均と比べると低い、これは、跳躍能力に優れているが、柔軟性・全身持久力に課題が見られます。中学校2年生の女子では、立ち幅とび・ハンドボール投げは、全国・全道平均と比べると高く、握力・長座体前屈・反復横とび・20mシャトルランは、全国・全道平均と比べると低く、跳躍能力に優れているが、柔軟性・全身持久力に課題が見られます。平成27年度だけを捉えると小学生や中学生だけ、男子や女子だけという傾向は、なかなか捉えられない。議員が言われるとおり母数が少ない傾向もありますが、全体として跳躍能力に優れているけれど柔軟性に課題が見られるのではないかと考えています。次に、平成28年度から継続して取り組む対策についてですが、体育・保健体育授業においては、児童生徒の発達段階を考慮して課題を踏まえた授業展開、例えば、柔軟性や持久力が課題であるとする、体づくり運動、機械運動、陸上競技内容の改善、関連して高まる体力も考慮しながら運動の仕方を工夫すると共に適切な運動量を確保することや、仲間との係わりを重視した指導に配慮するよう各学校へ指導します。また、月形町教育振興会や各学校の校内研修において、例えば、体力運動能力等の調査結果を踏まえた授業や研究競技を通じ、体力・運動能力等に関する課題を共有し、自ら実践に活かすなど教職員の研修が深まるよう指導します。体育・保健体育の学習指導要領の目標には、運動の楽しさや喜びを味わうことができるようにすることが示されており、自分の目標に向かって努力し達成感を味わい楽しんで取り組むことが大切であると考えています。従って、現在、中学校で実施している「わたしの体力運動能力の変化」と題する個人データをベース化した独自教材があり、これらを有効活用して子ども一人ひとりが自らの体力の状況を把握すると共に、家庭での情報を共有する中で、目標を持って持続的に体力運動能力の向上に努めることができるよう取り組みを充実させます。以上、学校での授業校内研修を中心に説明させていただきました。

○ 議長 堀 広一 宮下裕美子議員

○ 議員 宮下 裕美子 今、教育長から具体的な取り組みとして体育・保健体育に関することを説明いただきました。聞きたかったのは、今回教育行政執行方針で、学校教育分野で体力をあえて取り入れていなくて、学校教育分野では体力向上について何も記載がなかった。社会教育で一部取り上げられていたので、そのことについて具体的な向上策について説明もあわせていただきたいということでしたが、その部分の説明をいただけないでしょうか。

○ 議長 堀 広一 教育長

○教育長 松山 徹 体力については、学校教育でも重要であると思っています。社会教育で一部、頭出しさせていただきました。学校教育では知・徳・体を考慮した教育活動の工夫ということ記載させていただきました。社会教育の取り組みですが、子ども達が運動やスポーツに親しむことができる環境づくりが大切であると捉えていますので、子ども向けスポーツ大会やチャレンジ教室など現在実施していますが、これらを充実させることです。更に現在行っている学校や子ども会等を通じて各種スポーツ大会等の参加を促す取り組みを拡充しようと考えています。更に、昨年度から幼児や児童を対象とした子ども運動教室を年間かなりの日数行っていますので、これらも充実させようと考えております。

○ 議長 堀 広一 宮下裕美子議員

○ 議員 宮下 裕美子 そうすると、今までの事業を継続して行って、特段体力づくり調査などを踏まえての新しい取り組みはないということですか。まちづくり常任委員会でも、体力についてかなり全道・全国から落ちていること自体、全道が最低ラインにきているので、そこは真剣に受け止めて、より一層しっかりした取り組みが必要ではないかということもあり、先日の報告書にもそのことは明記されています。それも踏まえて、このように全国体力結果報告もあるということで、何か新しい積極的な取り組みがあるということで、今回、一般質問で取り上げたのですが、それがあればと思ったのです。先ほどの2問目の人口の男女比を視点に関係して、自然体験などの活用ということで、体力の向上について少し説明させていただきます。体力と学力には相関関係があることは、既にいくつかの研究報告があり、特に幼児期などの体力を上げることが、その後の学力につながるということで、幼児期の体力向上・運動能力向上に積極的に取り組む自治体も出てきています。平成28年度からは、認定こども園となり教育委員会も認定こども園の運営に係る

わけですから、そういう意味では、学校教育とは違いますが、より一層認定こども園には月形町の子どもたちほぼ全てが就学前には集まるので、その子ども達を対象にした様々な施策もできるのではないかと。2問目の質問で男女比でも少し触れようと思ったのですが、今保護者間では自然を使った森の幼稚園、自然体験活動などに興味を持たれ、より一層そこに園児も集まる方向が進んでいます。あるいはプレイパークをやって子ども達が自由に規制なく群れて遊べる場所を提供する活動がされています。これは幼児に限ったことではなく、小学生もできるし中学生などがサポートしながら学年を越えて自由に遊び発散するという事で、体力向上や様々な地域活動につながる横の連携などができる活動があります。このような幼児向けあるいはもう少し上の学年も対象にした子ども達が自由に遊んで群れることができるプレイパークなど、大体行政はサポート役で最終的には保護者がきちんとやっていくかたちが一般的ですが、それにしてもこのような場を設定することあるいは勉強会を開催することも支援につながると思いますが、そういうことをして、幼児期から学校期にかけての子ども達の体力向上に教育委員会として取り組んでいく方向にはならないか。これは、ひいては先ほど言った人口対策にもつながっていくのではないかと考えますが、この点について、教育長のお考えをお伺いします。

○ 議長 堀 広一 教育長

○ 教育長 松山 徹 前段の答弁が少し足りなかったということも含めて答弁したいと思います。先ほど申し上げた現在幼児や児童を対象とした運動教室に取り組んでいるということで、内容は体づくり運動、体ほぐし運動、巧みな動きを高める運動、サーキットトレーニングを行っており、試行的に取り組んでいる内容もあります。それを今回体力・運動能力調査の種目と少し整理して新しいものを取り込み、そちら側つなげていくことを考えています。また、現在、幼稚園やこども園で取り組んでいるリズム遊びや表現活動、今回の幼児や児童の運動教室で行っている種目と体力・運動能力等の種目もあわせながら、現在こども園で活動できないかということで連携して考えているところであります。プレイパーク等の提案もいただき、教育委員会としても森林を使った環境を考えて行かなければならないと思っています。現在の幼稚園や保育園で行っている環境部分も勘案して、冬の自然に慣れてもらうことで日本古来の遊びを2、3年前から自然の中での遊びということで、社会教育で展開しております。また、一部特定自然体験等を町外でということ

もありますので、子ども達を対象にした運動教室ということで、少し考えて行きたいと思っています。

○ 議長 堀 広一 宮下裕美子議員

○ 議員 宮下 裕美子 今、これからも色々な取り組みをされていくということなので、ぜひ取り組んでいただきたいと思います。一つ気になったのは、体力調査の結果は母数の関係で学年の特徴でだいぶずれる可能性があります。それも勘案した中でその種目の点数が上がるような感じで特化するよりむしろ様々な全身体を使うものこそ幼児期には特に必要ですので、学習塾みたいに体力調査の数値が上がることに特化するより、むしろできるだけ身体を使う場面が増える取り組みに特化していただけたらと感じていますので、そこもぜひ年頭に置いた上で対策を練っていただきたいと考えます。答弁があればお願いします。

○議長堀 広一教育長

○ 教育長 松山 徹 私の言い方がまずかったのかなと思いますが、その部分だけ特化して力を付けるという言い方だったのですが、そうではなく全体的な身体のバランス等も考えてということで、それは、全体を見ながら取り組んで行きたいと思っています。

○ 議長 堀 広一 宮下裕美子議員

○ 議員 宮下 裕美子 了解しました。